

横浜市感染症発生動向調査報告（令和6年6月）

《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症の報告が増加しています。
- 手足口病の報告が増加しています。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告が続いています。
- 梅毒は20歳代～50歳代を中心に、幅広い年齢層で患者が多く発生しており、より一層の注意が必要です。

◇ 全数把握の対象 <2024年5月20日～6月23日に報告された全数把握疾患>

腸管出血性大腸菌感染症	9件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
E型肝炎	2件	侵襲性肺炎球菌感染症	7件
レジオネラ症	6件	水痘(入院例に限る)	1件
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌症	5件	梅毒	39件
急性脳炎	3件	破傷風	2件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	7件	百日咳	1件
後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	5件		

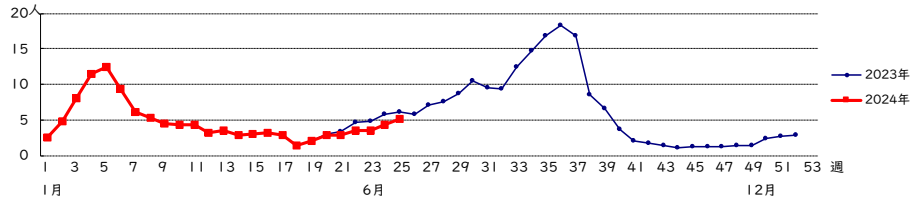
1. **腸管出血性大腸菌感染症**:10歳代～60歳代で、O血清群はO26が2件、O63、O103、O146、O157がそれぞれ1件、O血清不明が3件です。経口感染と推測される報告が2件、感染経路等不明の報告が7件です。
2. **E型肝炎**:いずれも50歳代で、感染経路等不明です。
3. **レジオネラ症**:60歳代～80歳代で、いずれも肺炎型です。水系感染と推定される報告が4件、感染経路等不明の報告が2件です。
4. **カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**:60歳代～80歳代で、医療器具関連感染と推定される報告が1件、以前からの保菌と推定される報告が1件、その他の感染経路が推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が2件です。
5. **急性脳炎**:10歳未満～80歳代で、病原体は単純ヘルペスウイルス2件(70歳代及び80歳代)、肺炎球菌が1件(10歳未満)です。飛沫・飛沫核感染と推定される報告が1件、その他の感染経路と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件です。
6. **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:10歳未満～90歳代で、血清型A群が3件、B群が1件、G群が2件、血清群不明が1件です。感染経路は創傷感染と推定される報告が3件、感染経路等不明が4件報告されています。
7. **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**:30歳代～40歳代で、いずれも性的接触(同性間3件、異性間1件、異性間・同性間1件)と推定されています。
8. **侵襲性インフルエンザ菌感染症**:80歳代(ワクチン接種歴不明)で、感染経路等不明です。
9. **侵襲性肺炎球菌感染症**:10歳未満～70歳代(ワクチン接種歴4回2件、無2件、不明3件)で、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が3件、感染経路等不明が4件です。
10. **水痘(入院例に限る)**:10歳未満(ワクチン接種歴無)で、飛沫・飛沫核感染と推定されています。
11. **梅毒**:10歳代～70歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期19件、早期顕症梅毒Ⅱ期12件、無症状病原体保有者8件です。性的接触による感染と推定される報告が37件(異性間34件、詳細不明3件)、感染経路等不明の報告が2件です。
12. **破傷風**:70歳代～80歳代(ワクチン接種歴無1件、不明1件)で、創傷感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件です。
13. **百日咳**:10歳代(ワクチン接種歴4回有)で、感染経路等不明です。

報告週対応表	
2024年第21週	5月20日～5月26日
第22週	5月27日～6月2日
第23週	6月3日～6月9日
第24週	6月10日～6月16日
第25週	6月17日～6月23日

◇ 定点把握の対象

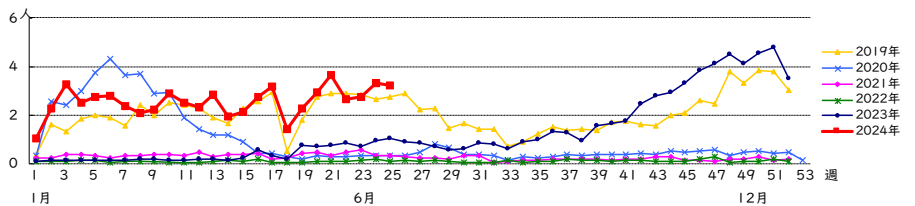
1 新型コロナウイルス感染症

2024年第5週(12.45)をピークに減少し、その後横ばいの状態で推移していましたが、5月以降増加傾向です。第25週は5.01です。



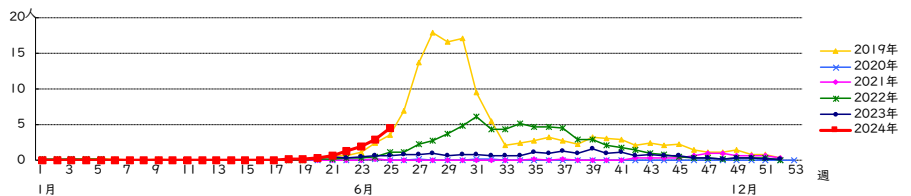
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

2024年第25週は3.23で、年始からほぼ一定の水準で推移しています。



3 手足口病

例年より早い時期から報告数が増加しています。第25週は4.53です。



4 性感染症(2024年5月)

性器クラミジア感染症	男性:37件	女性:19件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:14件	女性:2件
尖圭コンジローマ	男性:17件	女性:2件	淋菌感染症	男性:19件	女性:2件

5 基幹定点週報

	第21週	第22週	第23週	第24週	第25週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.25	0.50	0.33
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.25	0.75	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.25	0.50	0.50	0.75	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

6 基幹定点月報(2024年5月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	5件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

2024年第21第25週に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点42件、内科定点9件、基幹定点2件、定点外医療機関1件でした。

7月5日現在、表に示した各種ウイルスの分離5株及び遺伝子39件が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果 (2024年第21週～第25週)

主な臨床症状等 分離・検出ウイルス	上気道炎	下気道炎	ヘルパンギーナ	COVID-19 疑い	発熱	インフルエンザA	アデノウイルス感染症	肺炎
インフルエンザウイルスAH1型pdm09						2 -		
アデノウイルス2型	1 -							
アデノウイルス3型							2 -	
ヒトボカウイルス	- 3	- 3			- 1		- 1	
コクサッキーA6型			- 3					
ヒトヘルペスウイルス6	- 1							
パラインフルエンザウイルス1型		- 1						
パラインフルエンザウイルス3型	- 3	- 7		- 1				- 1
ライノウイルス	- 2	- 4		- 1				
ヒトメタニューモウイルス	- 1	- 2						
RSウイルス		- 2						
ヒトコロナウイルス HKU-1	- 1							
ヒトパレコウイルス		- 1						
合計	1 11	- 20	- 3	- 2	- 1	2 -	2 1	- 1

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

2024 年第 21 週～第 25 週の「菌株同定」について医療機関からの検査依頼は、基幹定点医療機関からメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 1 件、サルモネラ症 2 件でした。

保健所からの検査依頼は、腸管出血性大腸菌感染症 8 件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 6 件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 7 件、侵襲性肺炎球菌感染症 2 件、侵襲性インフルエンザ菌感染症 3 件、*Clostridioides difficile* 感染症 6 件、眼瞼周囲蜂窩織炎由来 A 群溶血性レンサ球菌 3 件でした。

「分離同定」の検査依頼は保健所からレジオネラ症 4 件でした。

「小児サーベイランス」の検査依頼は溶血性レンサ球菌咽頭炎 5 件でした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2024 年第 21 週～第 25 週)

菌株同定	項目	検体数	血清型等
医療機関 基幹定点	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	1	<i>Staphylococcus aureus</i> (1)
	サルモネラ症	2	<i>Salmonella</i> Stanley (1) <i>Salmonella</i> O4群(O4:i:-) (1)
保健所	腸管出血性大腸菌感染症	8	O26 : H11 VT1 (3) O157 : H7 VT1VT2 (1) O157 : H7 VT2 (1) O91 : H- VT1 (1) O146 : H- VT2 (1) Og118/151 : Hg2 VT1 (1)
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	6	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (3) <i>Klebsiella aerogenes</i> (3)
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	7	A群溶血性レンサ球菌 T1型 (2) A群溶血性レンサ球菌 T12型 (1) B群溶血性レンサ球菌 III型 (1) B群溶血性レンサ球菌 V型 (1) G群溶血性レンサ球菌 (2)
	侵襲性肺炎球菌感染症	2	<i>Streptococcus pneumoniae</i> (2)
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	3	<i>Haemophilus influenzae</i> (3)
	<i>Clostridioides difficile</i> 感染症	6	<i>Clostridioides difficile</i> (6)
	眼瞼周囲蜂窩織炎、菌血症	3	A群溶血性レンサ球菌 T1型 (3)
	分離同定 材料	項目	検体数
保健所 喀痰	レジオネラ症	4	<i>Legionella pneumophila</i> SG1 (1) 培養 陰性 (3)
小児サーベイランス 材料	臨床症状	検体数	同定、血清型等
小児科定点 咽頭ぬぐい液	発熱、咽頭炎、咽頭痛	5	A群溶血性レンサ球菌 T1 陽性 (3) A群溶血性レンサ球菌 T4 陽性 (1) 溶血性レンサ球菌 陰性 (1)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】